

## 黒田氏の時代

九州平定後の天正15年(1587)7月、秀吉から豊前国のうち6郡、約12万石を与えられた黒田官兵衛は初め、馬ヶ岳城を居城としました。官兵衛がこの城を居城とした理由は、古くからこの城が豊前国支配の拠点であったことと、領地南部に宇都宮氏など黒田氏の支配を不服とする在地勢力がまだ多く残っていたためだと考えられます。

官兵衛・長政父子は馬ヶ岳城を拠点に、黒田氏に抵抗する在地勢力の平定を進めました。他国に出向くことが多かった官兵衛に代わり、長政はたびたび馬ヶ岳城から出撃し、強敵宇都宮鎮房らと激しい戦いを繰り返しながら、領内の抵抗勢力を鎮圧していきました。

領地南部が安定した頃、黒田氏は山地の馬ヶ岳城から海に面した平地の中津城へ拠点を移しました。居城が中津城となった後も、馬ヶ岳城は支城として黒田氏の領内統治を支えました。



● 黒田官兵衛(如水)(1546～1604) 福岡市博物館 所蔵



● 黒田長政 (1568～1623) 福岡市博物館 所蔵

## 馬ヶ岳城への登山

行橋市大谷登山口と、みやこ町犀川花熊登山口の2つがあります。

### 公共交通機関をご利用の場合

平成筑豊鉄道「豊津駅」を下車し、今川を渡ったのち「天生田橋」交差点を1.2km直進。「大谷」交差点の石碑から細道に入り600m進むと登山口に到着します。

### 車をご利用の場合

みやこ処理場の奥にある「馬ヶ岳城西谷駐車場」から、看板表示に沿って約900m(徒歩約15分)で登山口に到着します。



大谷交差点



大谷登山口看板(右が登山道)

- 大谷登山口から
  - ▶ 山頂まで…1430m(徒歩約40分)
  - ▶ 畝状堅堀群(虎口)まで…400m(徒歩約6分)

## 馬ヶ岳城跡へのルート



■ お問い合わせ ■

### 行橋市教育委員会 文化課

〒824-8601 福岡県行橋市中央1丁目1番1号  
TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582  
<http://www.city.yukuhashi.fukuoka.jp/>

### 行橋市歴史資料館

休館日:火曜日(祝日の場合は次の平日)・8/15・12/28～1/4  
〒824-0005 福岡県行橋市中央1丁目9番3号  
TEL・FAX 0930-25-3133

2019.8 第3版

## 黒田官兵衛の居城

# 馬ヶ岳城跡



西の御所ヶ岳から馬ヶ岳を望む

## 「馬ヶ岳城跡」の概要

所在地 福岡県行橋市大字大谷・西谷  
福岡県京都郡みやこ町犀川花熊

概要 標高216mの馬ヶ岳に築かれた山城。黒田官兵衛の九州最初の居城として知られる。山麓部分の土塁、畝状堅堀群などの遺構は、平成25年11月1日に行橋市の史跡に指定された。

交通 馬ヶ岳城西谷駐車場(行橋市大字西谷477番地奥)より約900m(徒歩約15分)  
平成筑豊鉄道「豊津駅」より約2.5km(徒歩約30分)

## 行橋市教育委員会



## 北部九州の要衝

馬ヶ岳城は、福岡県行橋市とみやこ町の境に聳える標高 216mの馬ヶ岳に築かれた山城です。馬ヶ岳の名前の由来は、二つの峰からなる山の形が神馬に似ていることによるといわれます。

馬ヶ岳城は天慶 5 年(942)に源経基が築いたと伝えられ、新田氏など歴代城主の伝承が残されていますが、確かな記録から歴史がたどれるのは室町時代の応永 12 年(1405)からです。

今に伝わる古文書からは、馬ヶ岳城が北部九州の戦略上の重要拠点で、さまざまな勢力の攻防の舞台であったことがわかります。とくに中国地方を拠点として大きな勢力をもった大内氏や毛利氏、豊後を拠点に九州の大半に勢力を拡大した大友氏などが、豊前国の支配をめぐるこの城の争奪戦を繰り返しました。



● 北側から見た馬ヶ岳城跡



● 馬ヶ岳城の本丸跡に立つ新田氏の表忠碑

## 秀吉と馬ヶ岳城

天正 14 年(1586)、天下統一をめざす豊臣秀吉は、停戦命令に従わない島津氏の征討を決定し、黒田官兵衛を軍奉行とした部隊を九州に送りしました。当時馬ヶ岳城主であった長野三郎左衛門が秀吉方に服属したことから、馬ヶ岳城は秀吉の勢力下に入りました。

翌年 3 月 28 日には秀吉みずから遠征軍を率い九州に上陸、29日に馬ヶ岳城に入りました。馬ヶ岳城では軍議が開かれ、秀吉本隊の初戦となる岩石城(添田町)攻略戦が強攻策に決まると記す史書もあります。岩石城は堅城として知られていましたが、猛攻によってわずか 1 日で陥落し、その後の秀吉軍の破竹の進撃の端緒となりました。

同年 5 月下旬には島津氏が降伏し、秀吉の九州平定は完了しました。



● 豊臣秀吉の九州平定ルート

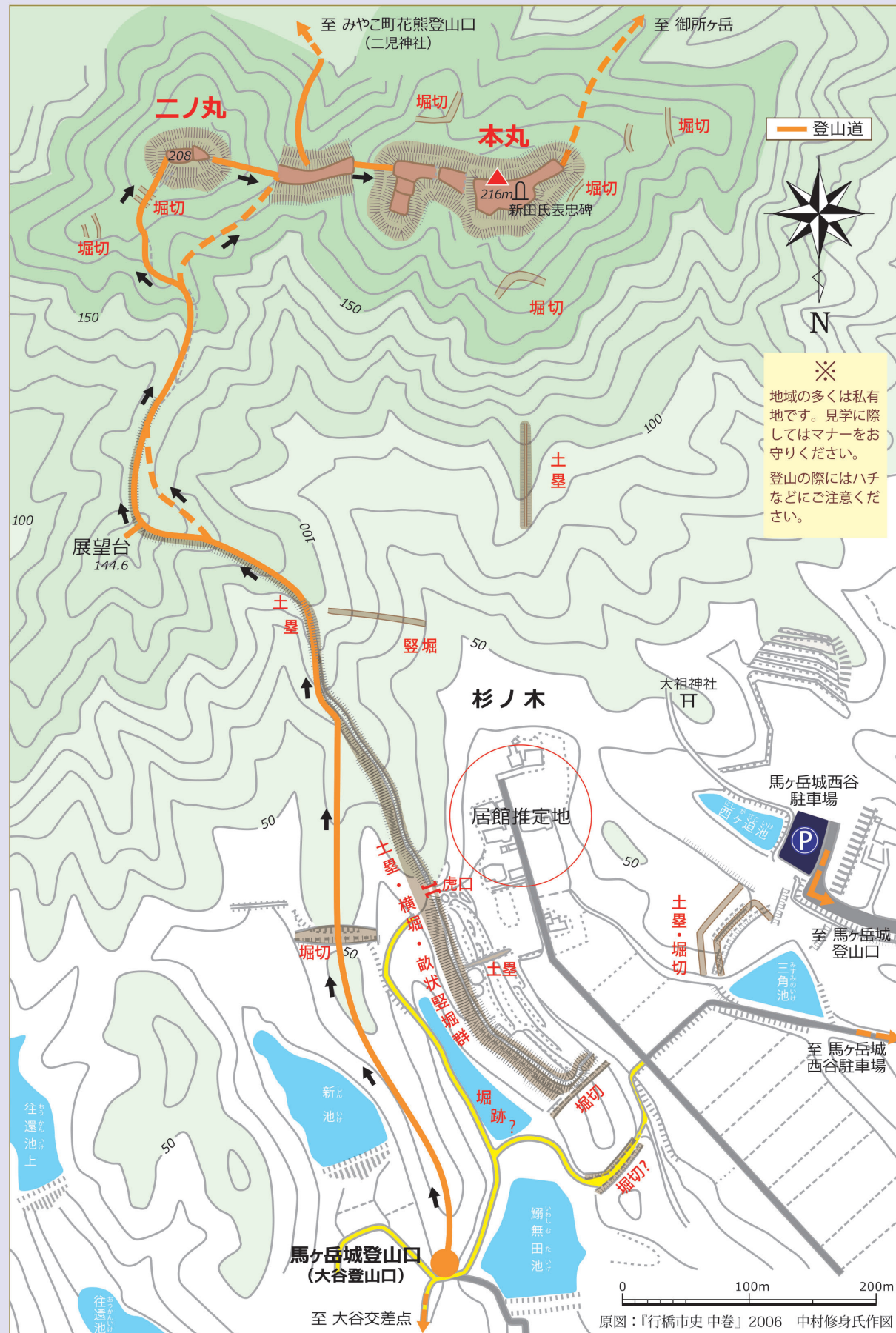


● 豊臣秀吉 (1537 ~ 1598)

高台寺 所蔵

## 馬ヶ岳城跡見学マップ

・大谷および花熊の登山道以外のコースは道に迷いやすいため注意してください。  
 ・登山には十分な装備のうえ、時間に余裕を持って登り、ごみは持ち帰りましょう。



山城とは、山に土木工事をほどこして、山そのものを要塞としたものです。馬ヶ岳城では、東西二つの山頂を平坦に削り曲輪とし、西側が本丸跡、東側が二ノ丸跡だったといわれています。

また、東の峰から北に下る尾根には、約 700m にわたる長い土塁や畝状縦堀群も確認されています。ほかにも堀切、切岸といった、山城ならではの防御施設が多く残されています。

江戸時代になると、山城はほとんど使われなくなり、大坂城や中津城のような平城が中心となります。中世の山城から、近世の平城への城郭の変遷を考える上で、馬ヶ岳城は貴重な史跡です。



横堀・土塁



畝状縦堀群

### 用語説明

- 曲輪…平坦に整地された城内の区画。
- 虎口…城や曲輪の出入り口。簡単に侵入されないような工夫が施されていることが多い。
- 土塁…土を盛り上げて土手のようにして、敵の侵入を阻止する防御施設。
- 横堀…等高線に並行するように掘られた堀。
- 堀切…山の尾根を堀で切断して、攻めにくくしたもの。
- 切岸…敵が登りにくいように削った急斜面。
- 畝状縦堀群…斜面に対して縦方向に掘った縦堀と土塁を畑の畝のように連続させ、攻めてくる敵の動きを妨げる防御施設。

原図：『行橋市史 中巻』2006 中村修身氏作図